



報道で紹介された美瑛高校 38

◆令和6年 12 月 19 日(R7. 1.27 北海道新聞)

ドローンサッカー同好会が設立され、本格活動が始まりました。今後月2回小中学生体験会を行い、また、大会参加も目指していきます。

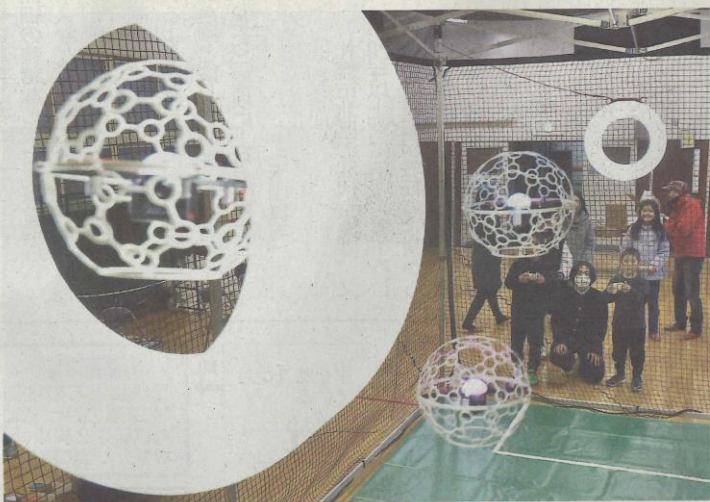
美瑛高校の新しい魅力の一つとして、地域に根付いてほしいと思います。

また、この活動は、生徒はもちろん町やたくさんの人たちによって支えられています。感謝の気持ちを忘れずしっかりと取り組んでいきましょう。

美瑛高 ドローンサッカーに熱

地元で体験会 生徒増期待

ドローンサッカーの体験会に訪れた小中学生にアドバイザーを送る同好会の生徒たち（西野正史撮影）



生徒の要望を受け昨年11月28日に設立し、1、2年の計7人が所属している。ドローン操作の技術を磨きながら、月2回の地元小中学生向けのドローンサッカー体験会も開いている。昨年12月下旬には初めて遠征し、拓殖大学北海道短期大（深川市）のドローンサッカー部と練習試合もした。

機材は、同町の教育支援費150万円を活用して購入。ドローン10機と、横4尺、縦8尺、高さ3尺の専用コート

（山中悠介）

同好会設立 活動本格化

【美瑛】操縦するドローンをゴールに入れて争う対戦競技「ドローンサッカー」の同好会が美瑛高に誕生し、地元向け体験会や遠征試合など活動を本格化させている。北海道教育委員会によると、道立高でドローンサッカーに関する同好会や部活動は珍しいという。同校は入学者数が低迷しており、魅力的な活動を発信し、生徒集めに役立てる考えた。

を留意した。ドローンサッカーは、球状フレームに覆われたドローンをコート内で飛ばし、設置されたリング状のゴールにくぐらせて得点を競う。競技を通して、町の基幹産業でもある農業や観光業で活用が進むドローンの操作技術習得にも役立てる。

同好会は練習試合や大会出場など学校から活動費の支援を受けやすい部活動への昇格を目指している。2年で同好会代表田口零斗さん（17）は「『楽しく活動』を大切にしながら、大会出場など実績を重ねていきたい」と意気込む。同校は2026年度からドローンの国家資格を取得できる選択授業の導入を予定しており、同好会活動と合わせて学校のPRに役立てる考えだ。

顧問の田中実教諭（62）は「生徒たちの将来につながる活動にし、学校を盛り上げていきたい」と話している。